

すわみつえ通信

No.179 2021年6月28日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かしいのちとくらしを守る市政に

64歳以下の方へのワクチン 接種券は6月25日発送済

鴻巣市では64歳以下の方(約66,900人)の接種券を6月25日(金)に発送しました。なお、12歳から15歳の方(約4,100人)の接種券発送は検討中です。

65歳以上の約8割(29,071人)の方の予約が済んでいます。(予約率78.4%)、1回目接種済みは16,893人(接種率45.5%)、2回目が済んだ方が2,725人(接種率7.3%)となっています。

(6月23日現在)

五輪が最大争点の都議選
への支援を引き続き

6月25日告示(7月4日投開票)の都議選が行われています。すわみつえ市議は、都内の友人に電話で支持をお願いしています。

「子どもたちを観戦させるなんてとんでもない」コロナ感染をさらに拡大させる五輪開催は「中止しかない」と、日本共産党への共感が広がっています。コロナを封じ込め一刻も早く安心して暮らせる日を取り戻すためにも引き続き、頑張ります。

【6月議会定例会】
一般質問のご報告



本会議場の壇上で一般質問する
すわみつえ議員=6月16日

●住民サービスの充実に向け 職員体制の適正化を求める

当市における職員の相談機関について質問しました。パワハラは女性を中心に職員課が、セクハラは女性を中心とした9名が相談機関となっています。昨年度の相談件数はゼロ件との答弁でした。

内部機関では「相談しにくい」のではとの問いには、「厚労省のハラメント悩み相談室」等も紹介しているという答弁でした。過去5年間の休職者数が急増しており、昨年度は休職者の9割の方はメンタルヘルスが原因でした。「休みが取りにくい」「業務が多すぎる」ということではないか。住民サービスの充実、職員の心身の健康があってこそです。

職員700名体制で、2021年4月1日現在の職員数は、693名です。業務量に見合った職員体制か、引き続き適正化を求めていきます。

●介護保険の利用は分かり 易くしてほしい

【質問】一人が入浴できる方への「浴室清掃はヘルパーがしてはならない」という独自のルールがある？
【答弁】独自の取り決めはありません。ケアプランに記載は必要です。

●笠原地区から鴻巣中央小学校に通学する児童の安全は

昨年度は6名の児童を8人乗りの公用車で教育委員会職員が登校支援を行っていましたが、今年度は16名の児童を業務委託された業者がバスで行っています。保護者から「安全のために補助員をつけてほしい」と要望が寄せられていました。「スクールバス」としての運用ではないため、個々の要望には対応しないとの答弁でした。来年から「スクールバス」として本格稼働となります。引き続き「安全な運行」を求めていきます。

俳句コーナー

露草の露は光の玉となり

瑠璃子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

2021都議選「五輪か命か」 正面对決 中止を訴える共産党



東京都議選が告示された6月25日、各党党首・幹部が都内各地で第一声を上げました。日本共産党の志位和夫委員長は、新型コロナウイルス対策や五輪問題という大争点について、訴えました。（しんぶん赤旗 6月26日付）

今回の都議選は、新型コロナウイルスの感染再拡大の兆候があらわれているなか、「五輪・パラリンピックを開催していいのか」が大争点となっています。「この問題で、感染拡大の危険を無視して五輪開催強行に突き進む自民党と、「五輪より命を」「五輪中止し命を守れ」と訴える日本共産党との正面对決が鮮明になりました。

自民党本部の中庭で行った出陣式で演説した菅義偉首相は「東京オリンピック・パラリンピック、開会式まで1カ月を切っている。徹底した対策を講じて、万全の準備の中でこの大会を進めていきたい」と五輪開催強行に固執。しかし、五輪開催による感染拡大のリスクも、その対策についても何も語らずじまいでした。

これに対し、日本共産党の志位和夫委員長は、新宿駅西口での第一声で「問われているのは五輪と命どちらを大切にするかだ」と指摘。追加リスクをゼロにはできないとする専門家の見解を紹介し、命を守る最良の方法は五輪を中止することだとズバリ提起し、人為的イベントである五輪は「政治が決断すればいつでも中止することはできる」と訴えました。

コロナ封じ込めの道 共産 三つの戦略示す

新型コロナウイルス対策をめぐって、自公都府県が封じ込めの戦略をなにも語れなかったのに対し、「コロナ封じ込め」の戦略を示したのが日本共産党の志位委員長でした。

志位氏は、（１）ワクチンの迅速接種と大規模検査をセットで（２）十分な補償と生活支援（３）医療を削る政治を改めるーを提起。ワクチン接種がまだ行き渡らない現状や新たなデルタ株の脅威が広がる下で、検査による無症状感染者の保護隔離の重要性を明らかにしました。

コロナ・五輪が大争点 都議選 各紙報道で鮮明



各全国紙は6月26日付の紙面でそろって、新型コロナウイルス対策と東京五輪・パラリンピック開催の是非が大争点になると報じました。

「毎日」は社説で、「コロナと五輪が問われる」と題し、「コロナ対策と五輪への取り組みをどう評価するか、各党の姿勢が問われる」としています。

「産経」は、社会面で、「五輪の形 主張くっきり」との見出しで、「主要各党のスタンスの違いが鮮明になっている」と指摘。「都民ファースト」より踏み込んだ主張を展開するのは共産党だ」として、日本共産党の志位和夫委員長の「都民と国民の命を守る最良の方法は何か。五輪をきっぱり中止することではないか」との訴えを報じました。

「東京」は、「コロナ・五輪 あすを選ぶ」との見出しで、「新型コロナウイルス感染が再拡大の兆しを見せる中、観客を入れての開催方針となった東京五輪・パラリンピック大会の開催の是非をはじめ、コロナの早期収束や疲弊した首都・東京の再生が論点となる」としています。



専門家提言を都合よく
使い分け 宮脇達

初の双子パンダ誕生に沸く上野動物園 「すり替え作戦で挑む育児」緊迫の舞台裏

東京・上野動物園は6月25日、23日に誕生したジャイアントパンダの双子の近況を公表した。2頭とも健康状態は良好で、性別はいずれもまだ不明。出産した母親のシンシン（15歳）は、出産による疲労があるが健康状態に問題はないという。

園によると、パンダは双子の一方しか育てないという特性から、出産時に1頭は取り上げて保育器に移し、もう1頭はシンシンが抱いていた。その後、24日午前1時半と25日午前3時すぎに2頭を入れ替えた。2頭とも母乳を飲めていると判断。保育器では、搾乳したものを与えている。赤ちゃんを入れ換え（すり替え）ながら、シンシンに双子2頭を交互に育てさせるのだ。

（共同通信 6月25日付）



保育器に入ったパンダの赤ちゃん